

### 《Entrevoir》(2013)と世界内部的な視線

←フレームの露出

⇔カメラオブスキュラの視覚モデル 【参考作品提示】

↓

単一平面上にいる「私」の主観的視線

cf.) 《Baguette Walk》(2010)

### 《971 Horses + 4 Zebras》(2007)

←マイブリッジやゾートロープとの関係

・世界内部的視線=ゾートロープの中に入る事 【参考作品上映】

↓

統一的な像がバラバラになる

=少しずつ異なるイメージの展開

→「アニメーション的」なものの再発明としての荒木作品

### 乗り物について

・荒木作品には様々な乗り物が頻出する。

→フレームを通した視線

・そのような視線によって何が達成されるのか？

①「私が動く」という運動感覚的主体の視線

②ビデオの画面に対する自己言及的メタファー

③リズムカルなイメージの展開 【参考作品上映】

→ゾートロープ内の視線

「アニメーション的」

### 《Road Movie》(2014)

・アメリカ地図の一望視 ⇔ その中のルール66を料理を通してたどっていくこと

cf) 《Zoom》(2014) ←絵の中に入る事 【参考作品上映】

・料理の写真の展示の「アニメーション性」

←少しずつ異なる料理写真の空間的展開

### 《Angelo Lives》(2014)

「間違った翻訳」の連鎖=「アニメーション的」

「目の隠喩」